

追跡評価報告書

| | | | | | | | |
|---------------|--|---------|--------|----------|-----|------------|------------------|
| 番 号 | 26-追跡-003 | | 報告年度 | 平成26年度 | | | |
| 研究課題名 | 大豆発酵物の機能性解明とその利用技術の開発 | | | | | | |
| 研究機関 | 食品工業技術センター | | | | | | |
| 研究期間 | 平成20年度～22年度(3カ年) | | | | | | |
| 連携機関 | 広島大学大学院生物圏科学研究科, 広島大学原爆放射線医科学研究所 | | | | | | |
| 研究経費 | 区分 | 【研究費】 | | 【人件費】 | | 【合計】 | |
| | 実績 | 4,338千円 | | 28,050千円 | | 32,388千円 | |
| | 当初 | 9,500千円 | | 28,050千円 | | 37,550千円 | |
| これまでの 評価結果 | 実施年度 | ニーズ | アプローチ法 | 事業効果 | 総合点 | 新規性 革新性 | 知的財産権等 取得の優位性 |
| | 事前評価 | H19 | 3.9 | 3.4 | 3.4 | 3.6 | |
| | 事後評価 | H23 | 3.3 | 3.2 | 2.7 | 3.1 | |
| 研究概要 | <p>(背景)メタボリックシンドロームに代表される生活習慣病の予防や生活の質向上が今後訴求の中心になると予想され、多くの県内食品企業が消費者ニーズに応える健康志向食品の開発を目指している。</p> <p>(目的)生活習慣病の予防に有望な食材である大豆に着目し、発酵・熟成により増強あるいは新たに付与される機能性を明らかにする。</p> <p>(開発する技術)大豆発酵物の利用拡大を図るため、新しい機能性を有したレジスタントプロテイン含有食材として、大豆タンパクの製造・素材化技術。</p> <p>(最終目標)大豆発酵物の機能性(血漿コレステロール低下作用及び内臓脂肪重量低減作用, 血漿トリグリセリド低下作用, 糞中二次胆汁酸減少作用)の解明及び大豆発酵物の利用技術を開発する。</p> <p>(得られる価値)新規食材の技術開発により健康志向食品市場において競争力のある差別化商品を開発できる。</p> <p>(成果移転計画)研究会などで公開し、大豆発酵物を素材として商品開発を行いたい企業に対し、食品工業技術センターの研修制度を活用し、個別対応による具体的な技術支援を行う。</p> | | | | | | |

1 成果移転の目標達成度

大豆発酵物の機能性を一定程解明したが、新たな機能性の解明及び利用技術の開発に至らなかったことから、積極的な成果の移転活動を行っていないため、成果移転は進んでいない。成果の公表は、食品工業技術センター研究報告（平成25年、第27号）で図った。

2 研究成果の事業効果

(1) 直接アウトカム（直接的効果）

県内食品企業のニーズに合致する、訴求力の高い機能性素材を提供する技術開発が実現しなかったため、事業効果は得られていない。

(2) 間接アウトカム（間接的効果）

食品の機能性評価技術を利用した、新たな商品開発を希望する企業からの要望がなかったため、事業効果は得られていない。

(3) インパクト（波及的効果）

生活習慣病の予防に有望な食材である大豆に新たな機能を付加することができなかったため、波及効果は得られていない。

(4) その他

○ラットを用いた機能性評価技術を獲得することができた。その技術は、平成23年度から開始した戦略プロジェクト「広島レモン利用促進技術開発プロジェクト」において、レモンの抗肥満作用評価に活用した。

○食品の機能性評価技術を獲得でき、県内食品企業がこれを素材とした商品開発を行いたいとの要望があれば、個別に支援できる。

3 知的財産権等の活用状況

なし。

個別評価（各センター記入欄）

| |
|--|
| <p>1 成果移転の目標達成度</p> <p><input type="checkbox"/> A：目標を上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。</p> <p><input type="checkbox"/> C：移転は行っているが、目標を下回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：移転は進んでいない。</p> |
| <p>2 アウトカムの目標達成度</p> <p><input type="checkbox"/> A：目標を上回っている。（見込を含む。）</p> <p><input type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。（見込を含む。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：目標を下回っている。（見込を含む。）</p> |
| <p>3 知的財産権等の活用状況</p> <p><input type="checkbox"/> A：実施許諾し、事業化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：実施許諾を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> C：知財化（出願等）を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：知財化（出願等）を行っていない。</p> |
| 備考： |

総合評価

| |
|---|
| <p><input type="checkbox"/> S：成果移転、アウトカムいずれも、目標を上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> A：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：成果移転、アウトカムいずれも、ほぼ目標どおりである。</p> <p><input type="checkbox"/> C：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや下回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：成果移転が進んでおらず、アウトカムはない。</p> |
| <p>（アウトカムが見込値であり、大きく変動する可能性があるとして想定される場合）</p> <p><input type="checkbox"/>：アウトカムを見極めるため、研究所において追跡評価を継続すること。</p> |
| 備考： |